

「働き続けやすい」とはどういうこと？

ねらい： 職業と家庭の両立(における働きにくさ)について、関係者の様々な努力と漸進的な改善、現状において残る課題について理解させる

授業スタイル	探究的な学習(グループでの話し合い主体)
扱うことが適切な教科等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科[青年期の自立、生涯の生活設計、等] ・総合的な学習の時間
どのタイミングで扱うか	<ul style="list-style-type: none"> ・教科での場合、適切な時期に ・それ以外の場合、2年次1学期(進路選択ともからめるため)
配当時間数	1時限
この授業で身に付けて欲しい力	<ul style="list-style-type: none"> ・社会問題を自分に引きつけて考える力 ・問題を深く考え、話し合う力 ・データから類推する力
この授業で理解させたいこと、気づかせたいこと、身に付けて欲しい知識等	<ul style="list-style-type: none"> ・性別によって働き方はどう異なりうるのか？ ・だれもが働き続けやすい社会とはどんな社会なのか？ ・性別、年齢によって働き方の特徴はあるのか ・労働者を守り助ける法律と制度について
授業概要	<p>①導入：「あなたは将来、子どもを持った場合に育てながら働き続けますか？」</p> <p>②テーマの提示と確認・学習：「誰にとっても働き続けやすい社会とは」 <ul style="list-style-type: none"> ・既習項目の確認(又はまだ履修していない場合、簡単に学ぶ) </p> <p>③思考1：子育て世代の女性の離職について</p> <p>④思考2：子育て世代の女性の離職が時代とともに減少している理由</p> <p>⑤まとめと振り返り</p>
使用する教材等(読み物、ワークシート、動画、ウェブサイト等)	<ul style="list-style-type: none"> ・添付のワークシート ・添付のデータが掲載された資料(M字カーブ等)
協働する外部人材等	労働法と制度に詳しい専門家や子育て中の社会人(必須ではない)
協働の際のこの授業案に特徴的な留意点等	子育て中の社会人を招く際の様々な配慮事項
学習の評価の方法の例	ワークシートと振り返りシートによる
この授業案からの発展的な学習の可能性について	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の社会人を招いて、生徒と一緒に話し合ってもらう ・「両立支援」の施策や考え方に関する学習 ・育児・介護休業法や制度に関する学習

授業の流れ

※時間はあくまで目安です

時間(所要)	進行	内容	留意点・備考
0:00 (5分)	導入	Q「あなたは将来、子どもを持った場合に育てながら働き続けますか？」 ・個人で考えさせる ・生徒に手を挙げさせ、何人かの生徒に理由を述べさせる ※イメージできない生徒も多いかもしれないが、まずは「働き続ける」ということを自由に考えさせる	ワークシートの配布
0:05 (5分)	テーマの提示と既習事項の確認・学習	○テーマ：誰にとっても働き続けやすい社会とはどんな社会でしょうか？ ・男女ともに働くのが当たり前の社会 ・社会の一員として ・自立(四つの自立)と働きがい	適宜教科書や資料集を用いる
0:10 (15分)	思考1	○問いかけ①「なぜ20代・30代の女性が仕事を辞めてしてしまうのだと思うか？」 →M字カーブの男女の比較と外国との比較のデータ提示(※まずは違和感を感じてもらう) →「どうしてだろう？」(グループで話し合い) →クラスで意見を共有する ※性別役割分業について(教科書や資料集も見せながら)具体的に説明する。その際家事労働のグラフを見せる ※生徒に家事を手伝っているか聞いてみる	データが掲載されたシートを配布又は提示
0:25 (15分)	思考2	○問いかけ②「他方、時代とともに少しずつその世代の仕事を辞める女性が減っている(M字カーブが緩やかになっている)のは、どうしてだろうか？」 →グループで話し合い →クラスで共有 ・状況に応じて(なるべく)、ワークシートの最後の問いについても生徒に考えさせる	※必要に応じて適宜ヒントを与える
0:40 (10分)	振り返りとまとめ	○本日の授業の問いについて、生徒に一人でもう一度考え、最初の自分の考えと比較させる(振り返りシート等を用いる) ・一番学んだと思うこと、気づいたこと ・最初の自分の考えとの比較 ・感想	・振り返りシートの配布 ・各自記述して提出

1章

2章

3章

16

4章

5章

6章

7章

8章

<ワークシート>

年 月 日 年 組 名前： _____

◆「あなたは将来、子どもを持った場合に育てながら働き続けますか？」

はい いいえ (理由 _____)

◆このテーマに関する日本社会の現状を見つめてみよう(これまで学んだことや、教科書・資料集などを参考に)

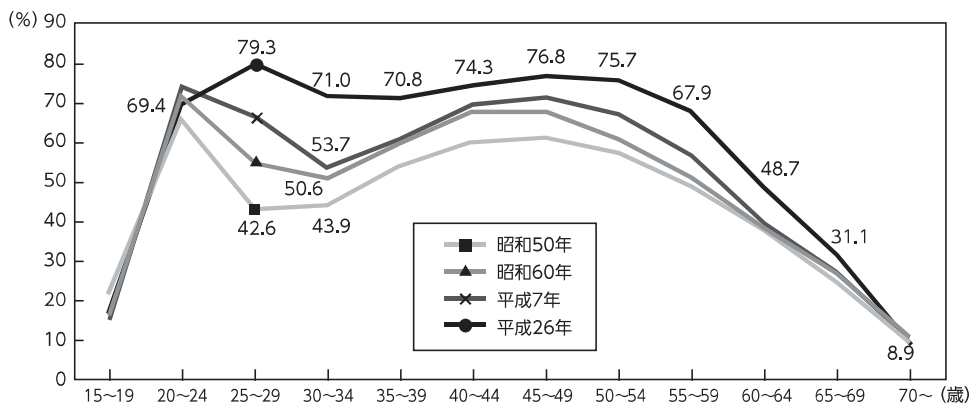
◎本日の授業の問い：「誰にとっても働き続けやすい社会とはどんな社会でしょうか？」

◆Q1 なぜ20代、30代の女性が離職してしまうのだと思うか？

◆Q2 時代とともに少しずつその世代の離職が減っているのは、どうしてだろう？

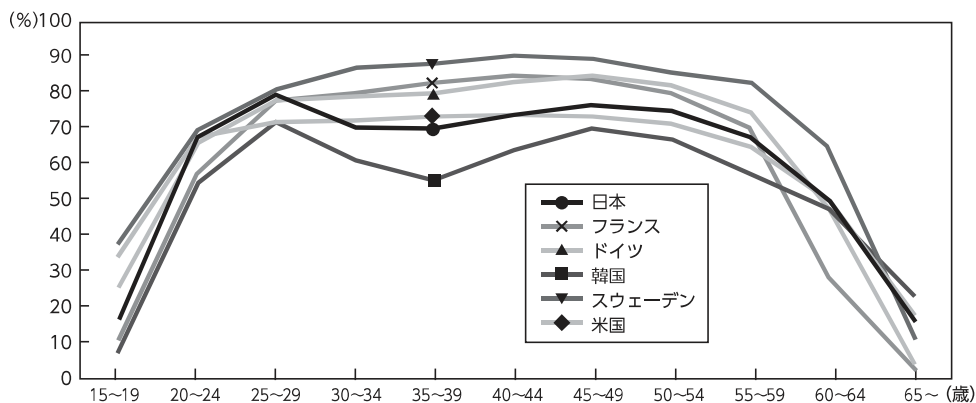
※ 「誰にとっても働き続けやすい社会にするためには、どうしたらよいかについても考えてみよう。」

「男女共同参画白書(平成27年度版)」女性の年齢階級別労働力率の推移



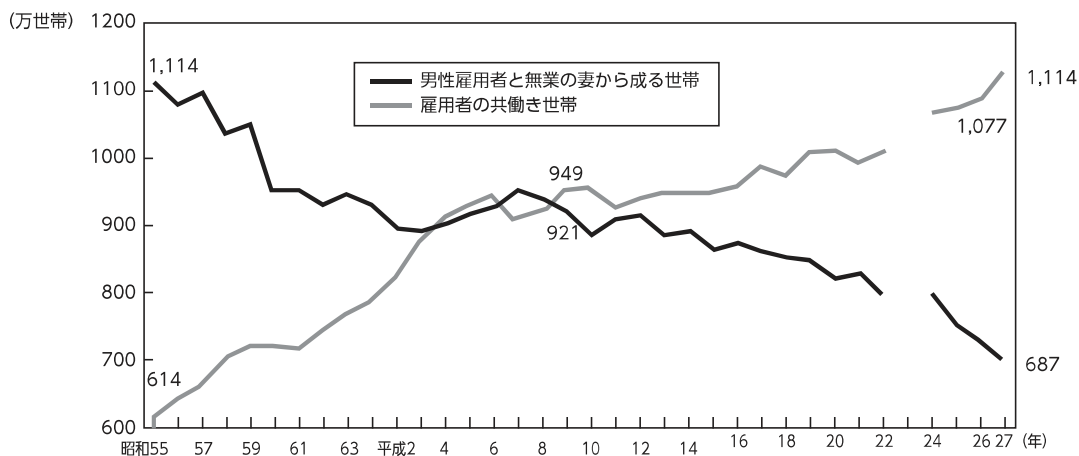
(備考) 1. 総務省「労働力調査(基本集計)」により作成
 2. 「労働力率」は、15歳以上人口に占める労働力人口(就業者+完全失業者)の割合

「男女共同参画白書(平成28年度版)」主要国における女性の年齢階級別労働力率



(備考) 1. 日本は総務省「労働力調査(基本集計)」(平成27年)、その他の国はILO「ILOSTAT」より作成。
 2. 労働力率は、「労働力人口(就業者+完全失業者)」/「15歳以下人口」×100。
 3. 日本、フランス、韓国及び米国は2015(平成27)年値、その他の国は2014(平成26)年値。
 4. 米国の15~19歳の値は、16~19歳の値。

「男女共同参画白書(平成28年度版)」共働き等世帯数の推移



(備考) 1. 昭和55年から平成13年までは総務庁「労働力調査特別調査」(各年2月。ただし、昭和55年から57年は各年3月)平成14年以降は総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。「労働力調査特別調査」と「労働力調査(詳細集計)」とは、調査方法、調査月等が相違することから、時系列比較には注意を要する
 2. 「男性雇用者と無業の妻から成る世帯」とは、夫が非農林業雇用者で、妻が非就業者(非労働力人口及び完全失業者)の世帯
 3. 「雇用者の共働き世帯」とは、夫婦共に非農林業雇用者(非正規の職員・従業員を含む。)の世帯。
 4. 平成22年及び23年の値(白抜き表示)は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果

振り返りシート：本日の授業での学習の足跡を残そう！

1. 学習を始める前に

誰にとっても働き続けやすい社会とは
どんな社会でしょうか？



2. 学習を終えた後で

誰にとっても働き続けやすい社会とは
どんな社会でしょうか？

学習前と学習後の自分の考えを比較する

(1) 「誰にとっても働き続けやすい社会とはどんな社会でしょうか？」に対する考え方はどのように変化しましたか？また、変化した場合はその理由を書いてください。

(2) 本日の授業で学んだことで一番大切だと思ったことは何ですか？あなたの意見を自由に書いてください。

(3) 本日の授業にタイトルを付けてください。

タイトル

(4) 次の項目について当てはまるものにチェックを付けましょう

①働き続けやすい社会について

よく考えた 少し考えることができた あまり考えられなかった ほとんど考えられなかった

②異なる意見や他者の考えを受け入れ、自分の考えを広げることが

よくできた 少しできた あまりできなかった ほとんどできなかった

(5) 本日の授業を受けてもっと知りたくなったことを書いてください。

年 月 日 年 組 名前：

確かめよう!
労働条件。



「アルバイトの労働条件を確かめよう！」
キャラクター「たしかめたん」